

サイエンスキャンプ2004 報告

今年もサイエンスキャンプ2004が8月18日(水)～20日(金)の3日間、畜産草地研究所で開催されました。毎年行われている(財)日本科学技術振興財団主催のこのキャンプも今年で約10年が経過し、当時の参加者であった高校生たちが、現在、科学の分野で活躍しようとする場面も見え始めているということです。

当研究所も豊かな科学的素養を持つ高校生の育成を大いに期待し、今年度は畜産環境部が主となり「家畜にも人にも自然にも優しい飼い方」というテーマで全国から6名(男子2、女子4)を受け入れました。

プログラムは、環境負荷を考えた飼料の組み合わせのプログラム化、微生物での污水浄化実験、においの強さの数値化、環境負荷物質低減に向けた乳牛の尿量測定実験、優しく搾乳するためのミルクー構造の観察、搾乳体験や牛舎の構造の見学等たいへん盛りだくさんの内容を畜産環境部内や業務第1科の多くの講師の協力により、分刻みのスケジュールで進められました。

今回参加の高校生は、将来、酪農家志望の者、進路に向けてきっかけをつかもうとする者、環境面での特に「におい」に関心を持つ者などたいへん個性あふれるメンバーでしたが、6名全員に伝えることは、講義に対して終日、熱心な態度でのぞみ、少しでも今後の自分に役立てていこうという意欲がみら

れたことでした。全てのプログラムに普段、学校ではできない実験や体験が含まれていたことも魅力的であったようです。

たった3日間という短いキャンプ期間でしたが、この期間に得たものが、きっと、受講生たちの今後の生活や勉強の中で、環境に配慮した畜産の取り組みへの考え方、さらには環境問題全体への見方をより深めていってくれるものと確信しています。

(企画調整部 情報資料第1課 岡田明子)



閉講式終了後関係者にて：

前列中央横内理事の左右各3名の計6名が受講生



1日目講義「微生物で水をきれいにしてみよう」：
畜舎污水浄化実証プラントにて



2日目講義「牛の行動を知る」：
牛舎にて超音波画像診断装置により牛の妊娠を観察